

## 傘屋で

店主 いらつしゃいませ。

カール・ファレンティン 雨傘を修理していただきたいのですが。

店主 雨傘ですか？ それほど傷んではないですね 修理所へ持って行ってそこで職人に修理させましょう。

KV ええ、それで、いつできますか？

店主 そうですね、お客様がいつ傘をお要りようかによりますが。

KV それは、雨がいつ降るかによりますがね。

店主 雨がいつ降るか、それはやはり私にもわかりかねますが。

KV なら、私にだってわかるはずないでしょうが。

店主 今週中にはお要りようでしょうか？

KV 今週中に雨が降れば、要りませんがね。

店主 まったくですね。 今週まだ降るかもしれない でも降らないかもしれない。

KV 今週、降らないとすると、きっと来週は降るでしょう。来週も降らないとすると、再来週、絶対に降るかどうかは確かではない。だから、私は傘を前の日に取りに来ます。

店主 それでは水曜日ですね。

KV 水曜日に当たるかどうかは、わかりませんがね。

店主 そうですか どうでしょうかね。

KV いずれにせよ傘は取りに来ますよ。肝心なことは、その時、傘が修理されているということです。

店主 修理はすぐになります。

KV すぐに修理できるなら、きょうのうちに受け取れますか？

店主 もちろん、きょう中にお渡しできますけど、でもきょうは降らないでしょう。

KV それなら修理を急ぐ必要はありませんね。雨が降る時に、あればいいんですから。

店主 できあがりでしたら、お受け取りになれますよ。

KV そんな必要はありません。だって、修理がすんでも、うちの洋服だんすに入れておくだけですから。つまりお天気ならばね。でも天気が悪くなると、こわれた傘を修理に出すにはもう遅すぎるんですよ。

店主 おっしゃる通りです。肝心なのは、傘がうちにあるうとお宅にあるうと、ちゃんとしているってことです。でもね、こんなお客さんも多いんですよ。こわれた傘を何週間も家に置いておいて、突然、天気が悪くなったりすると、そのこわれ傘を持って見えて、すぐ直してくれとおっしゃるんです。そして、それができると 雨も終わっていて、取りに見えないんです。もう百本以上も古傘が倉庫にあります、どれも引き取りに見えなかったものでして。お客様の傘もその中に入るようなことがなければいいんですがね。

KV いえ、私は大丈夫ですよ。ですから、おかみさん、今、雨が降るか 降らないか いつまでにこの傘、修理できますか？

店主 ええ、そうですね、まあ、二週間後に。

KV 二週間後ですね、わかりました。ですが、もしそれまでに雨が降ったら

店主 まさか 降らないでしょう。

KV いえ、私はただ、万が一、降った場合のことを言っただけです。

店主 まあ！ おかしいですわ 万が一でも降るなんて！ このきれいな青空をご覧下さいな。

KV そうは言ってもね、雷雨は来るかもしれないですよ。

店主 あら、馬鹿らしいですわ 雷雨が来るだなんて、今、七月ですよ 牛にだって笑われますよ。

KV おかみさん、聞いて下さいよ。私だって、今、天気が良くて、おそらくこのまま持つだろうって、わかりますよ それに私にとっても良い天気の方が、いやな悪い天気よりも好ましいですよ。

店主 ちょっと、失礼じゃないですか。ほら、あんたのぼろ傘よ とつとつと、うちの店から出てって下さい。さもないと追い出しますよ。 何て、無礼なんですよ。悪い天気を罵るなんて お聞きしますけどね、私ら雨傘屋が何のおかげで暮らしてるとお思い？ ずっと、良い天気だったらどうなるとお思い？ 覚えときなさい、共存共栄ってことを！